病児保育室とう太通信

vol.15

子どもたちは様々な病気にかかりやすいです。特に集団生活を始めた年はくり返し病気にかかります。
「**体調が悪い時は休む**」を当たり前に考え、子どもたちが元気に生活できるよう周りの大人が感染症対策を行いましょう。

学校感染症 … 決まった期間かならず休む

新型コロナウイルス感染症 検査でわかる

症状は発熱、咳、鼻水、下痢など。ほとんどが1～2週間で改善し、重症化したという報告は少ないです（脳炎・脳症が起こったという報告があります）。
出席停止期間「**発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで**」
また、マスク着用可能な人は発症後10日を過ぎるまではマスクを着用するよう推奨されています。

発症日	1日経過	2日経過	3日経過	4日経過	5日経過	6日経過	7日経過	8日経過	9日経過
／	／	／	／	／	／	／	／	／	／

- ☐ 24時間以上解熱している
- ☐ 食欲がいつもの8割以上ある
- ☐ 咳などで寝苦しくなく、睡眠が十分にとれている
- ☐ 活気があり元気そうにしている

すべてにチェックが付けられて24時間以上すぎてから普段の生活に戻りましょう！

濃厚接触者は特定されません。周囲の方は感染症対策をしながら普段の生活ができます。

インフルエンザ 検査でわかる

症状は高熱・頭痛・関節痛・全身倦怠感や、咳・鼻水などの風邪症状。ほとんどは数日～1週間程度で治ります。
子どもではまれに急性脳症を合併することがあります。
重症化予防にはインフルエンザワクチンの接種が有効です。

ここに注意！

小児はインフルエンザにかかることで、急に走りだす・部屋から飛び出そうとする・うろうろ歩き回るなどの異常行動をおこすことがあります。

アデノウイルス感染症 検査でわかる

アデノウイルスは60種類以上の型があり、それぞれの型によって様々な症状が出ます。
目が充血して2週間以上症状が続く「流行性角結膜炎（はやり目）」、高熱と結膜炎の症状がそろうと「咽頭結膜熱（俗称プール熱）」と症状によって呼び方が変わります。夏場の胃腸炎の原因にもなるウイルスです。

ここに注意！

症状によって呼び方が変わって混乱しやすいです！
感染力が強いので決まった期間休みましょう！

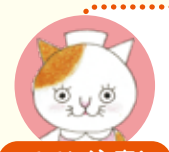
裏面に続きます

症状が良くなれば登園・登校できる

RSウイルス感染症

検査でわかる（0歳児のみ保険適応）

発熱、鼻水、ゼーゼーする咳といった**気管支炎症状**が特徴です。他にも似たような気管支炎のウイルスとして「ヒトメタニューモウイルス」「パラインフルエンザウイルス」などがあります。



ここに注意!

1才未満の赤ちゃんが感染すると重症化することがあります!
きょうだいやまわりの家族に赤ちゃんがいる場合は注意しましょう!

胃腸炎

一部のみ検査でわかる

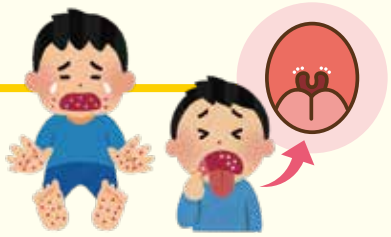
嘔吐･下痢の症状を総称して「胃腸炎」と言います。
有名なノロウイルス･ロタウイルスの他にも、アデノウイルス･エンテロウイルスなど様々なウイルスが原因となって胃腸炎症状が起こります。

ここに注意!

特別な薬はありません。
適切な水分補給を行い、脱水にならないように過ごしましょう!

夏かぜ

急に高熱がでます。
あとから咳･鼻水の症状がでることがあります。



手足口病　ヘルパンギーナ

ここに注意!

夏かぜの中でも、口内炎と手足に発疹が出るものが「手足口病」、口内炎ができるものが「ヘルパンギーナ」と呼ばれています。

「食べる・寝る・遊ぶ」ができるようになってから普段の生活に戻りましょう!

食べる

普段通りの物でなくてもの越しの良い物である程度食べたり飲んだりする事ができますか?
（普段の食欲の7～8割程食べられるのが目安です）

寝る

病状が辛くてぐっすり眠れない。
何度も目が覚めたり眠ってはいるけれどグズグズ言って寝苦しそうな姿はありませんか?

遊ぶ

普段通り元気に遊べなくても体を起こしてある程度機嫌よく遊ぶ事ができますか?

どうやってうつる?予防はできるの?

くしゃみや咳、鼻水の中や、唾液や便、嘔吐物の中にウイルスが入っていて、まわりに飛ばしたり他の人が触れてしまうことによって、どんどん感染が広がっていきます。
もちろん子どもから大人にうつる可能性もあるので、家庭内でも感染症の予防を心がけましょう。

いつ病院に行けば良い?検査は必要?

発熱や咳･鼻水、下痢などの症状のせいで「食べる･寝る･遊ぶ」が妨げられ、日常生活に影響している時は受診をおすすめします。**子どもの様子がおかしい･心配だと感じたら、ためらわず受診してください。**

検査をしなくても症状に合わせて必要なお薬が処方されます。どんな病気だったとしても、自分の体の力が病気を治すまである程度時間がかかります。お薬を飲んでも、体が休息できないと病気は治りません。
症状が治まるまでは安静9割、薬1割ぐらいの感覚で安静を保つことが重要です。

「この病気だから休む」ではなく「体調が悪いから休む」が当たり前になって欲しいと思います。
もしも家庭での保育が難しい時は、病児保育室とう太をご利用ください。

病児保育室とう太

併設 うえだこどもクリニック
UEDA CHILDREN'S CLINIC

〒520-2331 野洲市小篠原869番地1　077-596-3751

↑web予約受付はコチラから